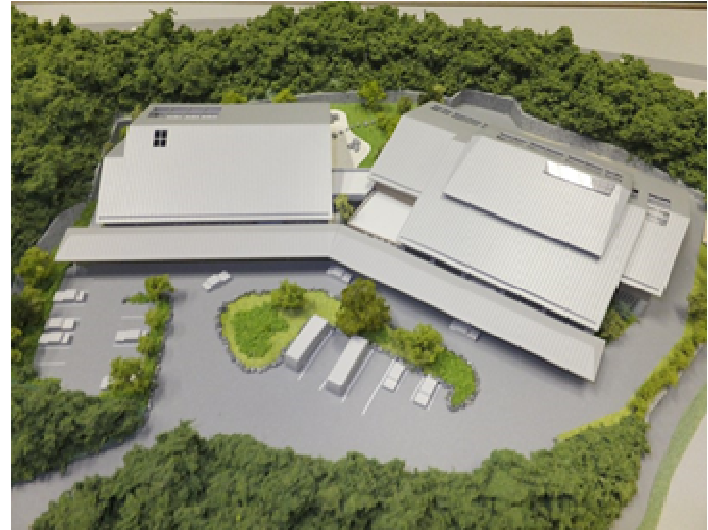


令和4年10月19日 宮崎市環境政策課

宮崎市葬祭センター長寿命化施設改修事業 〔説明資料〕



目次

- 1 サウンディングの目的
- 2 長寿命化に伴う施設改修の背景
- 3 施設の概要・管理運営の状況
- 4 施設長寿命化基本計画の主なポイント
- 5 現状の課題
- 6 サウンディング内容について

1 サウンディングの目的

本市では、「宮崎市葬祭センターの長寿命化に係る基本計画」(以下、「施設長寿命化計画」という。)を策定しておりますが、今後、改修工事を進めるにあたって、その整備手法や内容に対し皆様からのご意見を伺いたい。

2 長寿命化に伴う施設改修の背景

将来にわたって効率的かつ適正に管理運営行うために、施設全体のあり方について検討をする時期にきている。

①施設の老朽化

施設の老朽化により、施設の全体的な再整備が必要である。

②機能面の劣化

施設の竣工後30年近くが経過し、建設当初に想定された動線や部屋の使用方法が、現在の運営にそぐわない箇所が生じている。

③将来火葬需要の増加

年々火葬件数が増加しており、将来の火葬需要の増加に備えた火葬炉の更新が必要がある。

3-① 施設の概要

竣工年月：平成8年6月
 (火葬棟 平成7年3月)

敷地面積：20,265 m²

延床面積：3,092 m²

建築面積：3,241 m²

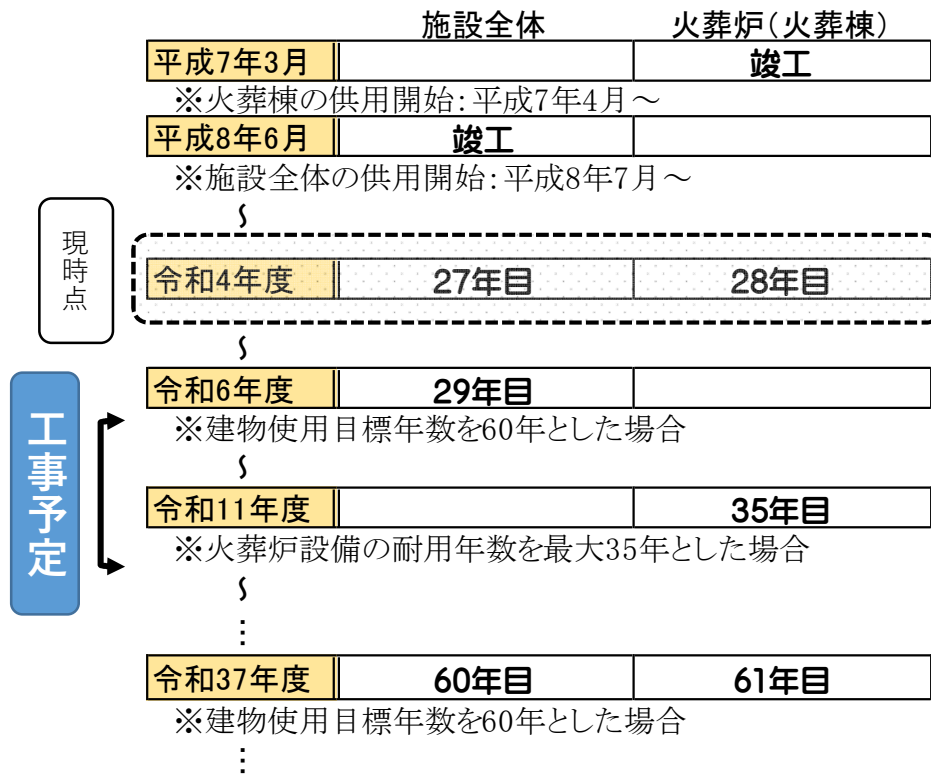
構造規模：鉄筋コンクリート造
 ※一部鉄骨造2階建

火葬設備：火葬炉：13炉
 (人体炉12、産汚物炉1)

告別室：3室、収骨室：3室

待合室：和室3室、洋室1室

≪施設経過年数イメージ≫



3-② 管理運営の状況

業務日：

元日を除く

開業時間：

9:00～18:00

1日最大火葬件数：16

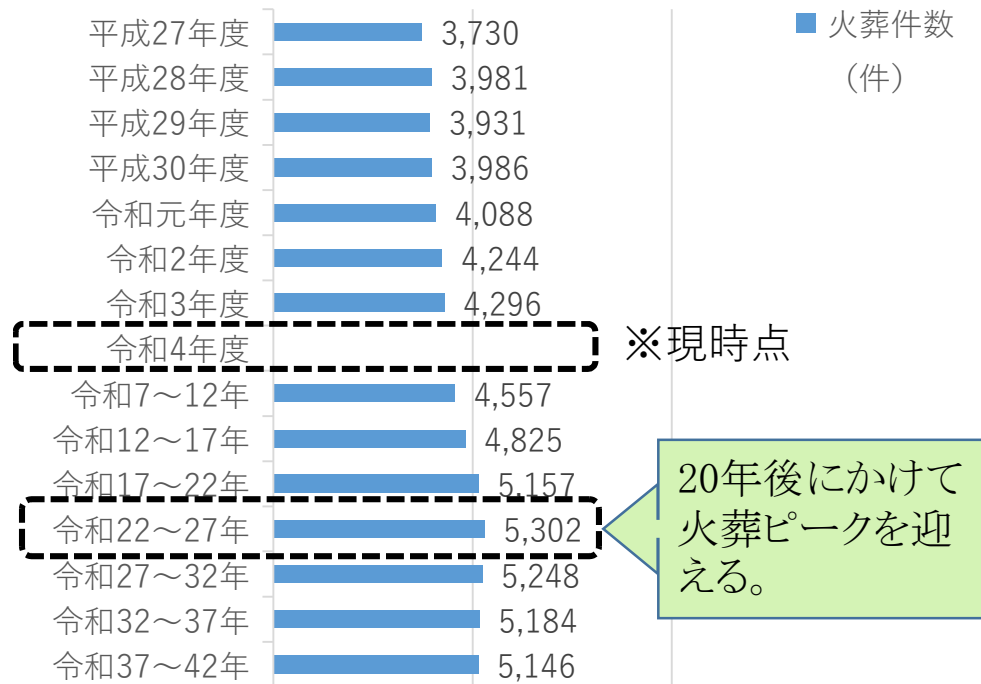
運営形態：

指定管理（平成21年度～）

現行指定期間：

R4.4.1～R9.3.31（予定）

火葬実績／見込み



4 施設長寿命化基本計画のポイント

(1) 施設使用期間の目標値

現行施設を建築後60年使用

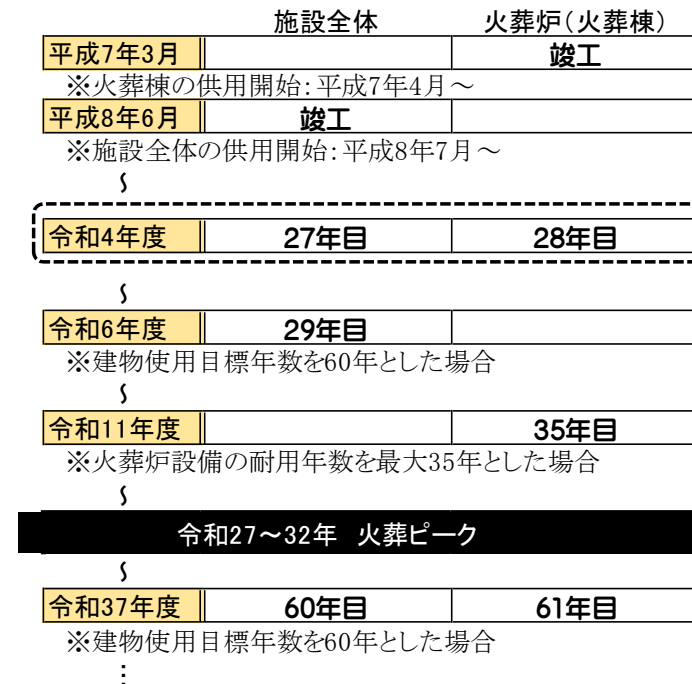
(令和37年には建築後60年目となる。)



今後、30数年間使用できる施設とする。

※火葬炉：現在の炉数(12基)を維持する。

《施設経過年数》



現時点

(2) 大規模修繕及び火葬炉設備更新の方針

「大規模修繕」と「炉設備の更新」を同時に実施する方が合理的

① 施設は運用を休止することが原則不可能

※ 工事は「居ながら工事」が求められ、手間と時間が必要

② 大規模修繕工事は、修繕内容を精査し実施

※ 大規模修繕工事の実施後の施設使用期間は、大掛かりな修繕を行うことなくを使用することを念頭に施設長寿命化を実施

③ 炉設備も、施設使用期間の使用を目標に更新する。

5 現状の課題

(1) 建築物の劣化

①内装・外装の劣化

経年による外装及び内装材の劣化が顕著である。

②建築設備の更新

建築設備(空調や照明など)の更新が必要な機器が増えている。

(2) 耐震安全性の問題

基本的に耐震補強を行わない。

現施設は新耐震設計法による建築物となっている。

※ただし、一部、安全対策工事を行う予定

- ・高さがある大きな天井部分
(炉前ホール／待合ロビー)

(3) 機能面の劣化

動線や室の使用方法の変化

建設当初に想定された動線や、室の使われ方が、現在の運営にそぐわない箇所が生じている。



施設機能面での長寿命化対応が必要となる。

(待合室の拡充や管理部門の改修など)

(4) 葬送慣習の変化

待合室の再配置

葬送のあり方が変化し、会葬者が少人数化されているが、

- ①遠隔地から来場する会葬者が一定程度存在する。
- ②極めて少人数の会葬者の利用に配慮が必要である。

(5) 火葬件数の増加

市の火葬場は、葬祭センターに限られるため、火葬需要の増加に伴い、基幹施設として役割の重要性がさらに高まる。

- ①年々、火葬件数が増加している。
- ②20年後には、現状(令和3年度)の約1.2倍程度と予測されている

※R3：4,296件／年 → 20年後：5,300件程度／年

R3：11.8件／日 → 20年後：14.5件／日

(6) 火葬炉設備の老朽化

①火葬炉の更新

平成7年に供用を開始した現設備は、30年近くを経過しており、更新時期を迎えている。

②周辺地域への環境保全の配慮

施設敷地の東側は住宅や大規模な教育施設などの開発が進み、今後も引き続き環境保全に取り組む重要性が増している。

③大型炉の導入

大型炉の導入が必要である。

※棺の大型化に伴い、現設備では対応できないケースがある。

6 サウンディング内容について

- (1) PPP／PFI制度導入の可能性
- (2) 民間事業者ノウハウの活用方法・内容
- (3) 民間事業者の事業への関心度
- (4) 参画する際の条件／参画できない理由
- (5) その他

(1) PPP／PFI制度導入の可能性

- ①葬祭センター改修工事に対し、PPP/PFIを活用できるか？
- ②活用できる場合は、どのような手法が導入できるか？

(2) 民間事業者ノウハウの活用方法・内容

- ・活用方法や内容はどのようなものが考えられるか？

(3) 民間事業者の事業への関心度

- ・葬祭センター改修工事に興味や関心があるか？

(4) 参画する際の条件／参画できない理由

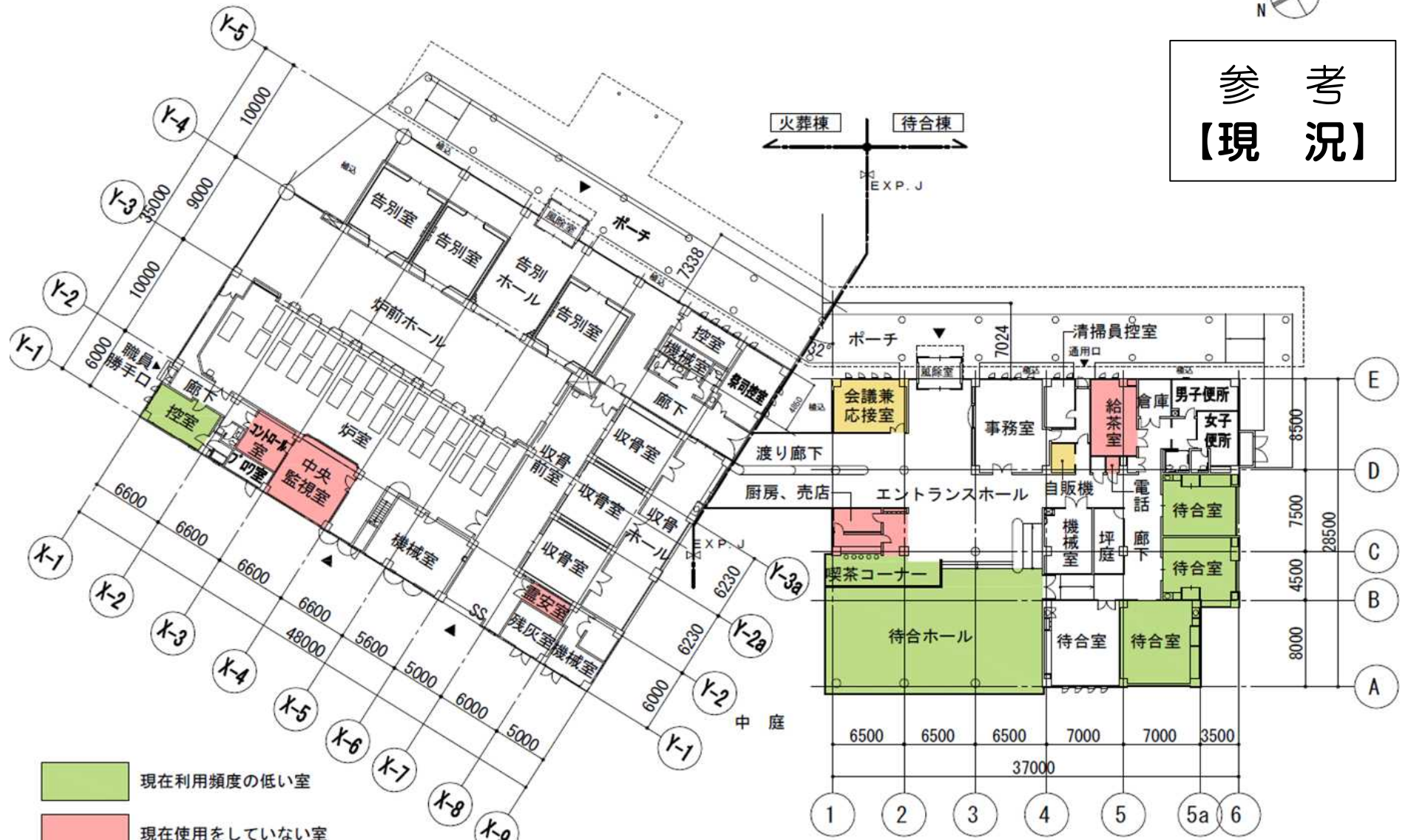
- ①参画する場合、条件は何かあるか？
- ②参画できない場合、それはどのようなものか？

(5) その他

- ① PPP/PFI制度を活用できない場合であっても、改修工程（設計～工事、運営など）の中で何かしら民間事業者のノウハウを活用し、事業を進める方法はないか？
- ② 改修後の施設について、省エネルギー・再生可能エネルギー型施設としたいが、どのような内容が考えられるか？



参 考
【現 況】



- 現在利用頻度の低い室
- 現在使用をしていない室
- 元設計と使用用途が異なる室

利用頻度状況図

SCALE: 1/800

現 況